

三菱エアパス用ファン〈壁据付専用〉 電気式シャッター付

とじピダ[®]

(居室・洗面所用)

形名	電源仕様	機能
V-08PFE ₂	速結端子	電気式シャッター付

据付説明書

販売店・工事店様用

据付けを始める前に、この説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

据付終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。

■据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・専門の工事店様が実施してください。
(間違った据付け、工事は、故障や事故の原因になります)

■電気工事は電気工事士の方が実施してください。

■この製品は居室・洗面所に据付けてください。

それ以外の用途には使用しないでください。

(故障の原因になります)

■製品の運転・停止にはシステム部材または市販のスイッチが必要です。

形名	適用パイプ	据付可能壁厚
V-08PFE ₂	<ul style="list-style-type: none"> 塩化ビニル管…VP、VU (呼び径100mm) 鋼板管 (内径100mm) 	43mm以上

1. 安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

	警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
	注意	誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

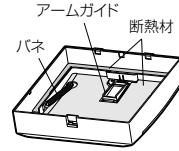
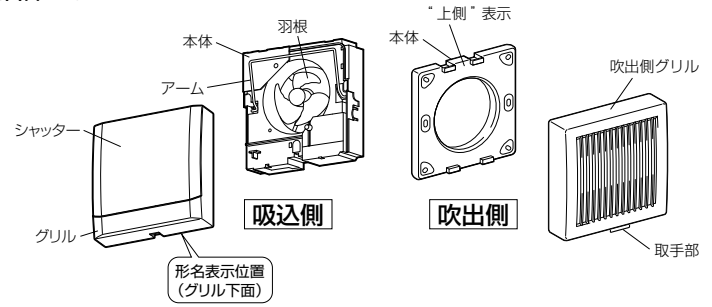
●図記号の意味は、次のとおりです。

	禁止		水ぬれ禁止		分解禁止		風呂・シャワー室での使用禁止
	指示に従う						

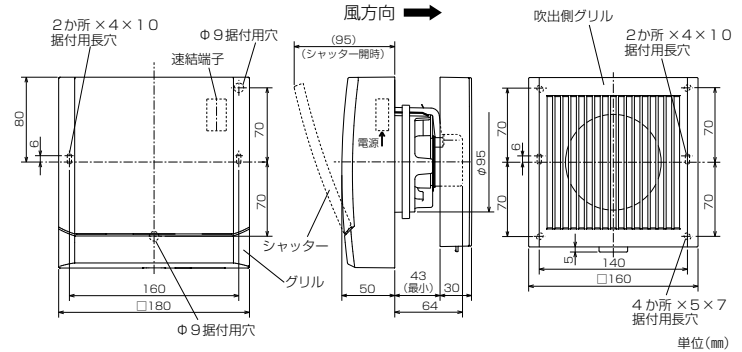
警告		注意	
	<ul style="list-style-type: none"> 製品を水につけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因。 		<ul style="list-style-type: none"> 高温 (40℃以上) になる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所や有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない 火災の原因。
	<ul style="list-style-type: none"> 改造や必要以上の分解はしない 火災・感電・けがの原因。 修理はお買上げの販売店または「三菱電機ご相談窓口・修理窓口」にご相談ください。 		<ul style="list-style-type: none"> 浴室など湿気の多いところには据付けない 感電・故障の原因。
	<ul style="list-style-type: none"> メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが、電氣的に接触しないよう据付ける 漏電・発火の原因。 交流100Vを使用する 火災・感電の原因。 		<ul style="list-style-type: none"> 電気工事は必ず電気工事店に依頼する 感電・火災の原因。 部品の据付けは確実に 落下によるけがの原因。 本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に 落下によるけがの原因。 据付けの際は必ず手袋を着用する 着用しないとけがの原因。 電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。 長期間ご使用にならないときは、分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電・漏電火災の原因。

2. 各部のなまえと外形寸法図

■各部のなまえ



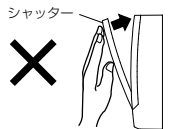
■外形寸法図



【付属部品】 木ネジ……4本

3. 据付前のお願い

- 高温 (40℃以上) になるところに据付けないでください。
(故障の原因になります)
- 塩害、温泉害の発生している場所には据付けないでください。
(故障の原因になります)
- 天井裏・屋外へ直接排気するところ、およびトイレには据付けないでください。
- 本製品は壁据付専用です。天井には据付けないでください。
- 壁板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものを据付けてください。
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。
(振動の原因になります)
- 吹出し側に火災警報器がある場合は、感知部から1.5m以上離れたところに据付けてください。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 電源が入った状態でシャッターを無理に押ししたり、引っ張らないでください。
(シャッター機構破損の原因になります)



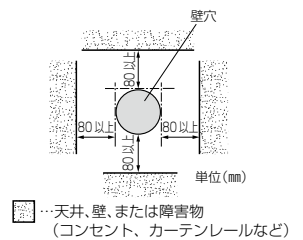
4. 据付方法

1 据付前の準備 (壁穴への接続パイプの固定)

- 据付場所を決めて壁穴をあける。
 - 右図の壁穴位置をご確認ください。
 - 接続パイプは壁厚に応じて長さを決めてください。
 - 必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。

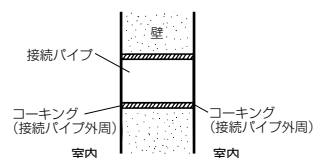
●お願い

- 据付位置は右上図の位置になるようにしてください。
- 電源電線を室内に引き込んでから (2)電気工事参照) 行ってください。
- 固定が不十分ですと振動したり異常音が発生する原因になります。
- 接続パイプは壁面より室内側に出ないようにしてください。



2. 壁穴に接続パイプを確実に固定する。

- 接続パイプと壁のすき間はコーキング処理を施します。
- 電源電線を室内に引き込んでから (2)電気工事参照) 行ってください。
 - 固定が不十分ですと振動したり異常音が発生する原因になります。
 - 接続パイプは壁面より室内側に出ないようにしてください。



2 電気工事

電源電線の接続・電気工事などは、必ず専門の工事店へご依頼ください。

■市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを選定して結線してください。

警告

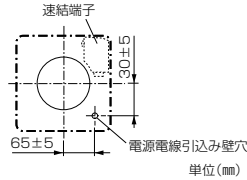
- 交流 100V を使用する直流や交流 100V 以外を使用すると感電の原因。

注意

- 電気工事は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（及び同解説）」及び「内線規程」に従って安全・確実に行う
接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因。
- 電気工事は電気工事店に依頼する感電の原因。

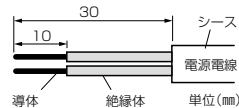
1. 電源電線を右図の位置から室内に引き込む。

- 電源電線は VVFφ1.6 または φ2.0 の 2 芯をご使用ください。



2. 電源電線の先端を右図寸法に合わせて皮むきする。

- 端子部への水の浸入・ほこりの侵入を防ぐため皮むき寸法を必ず守ってください。



3 本体の据付け

お願い

- インパクトドライバーは使用しないでください。本体の固定部分が破損するおそれがあります。
- 吸込側グリル（形名表示あり）は必ず羽根がある方の本体に据付けてください。

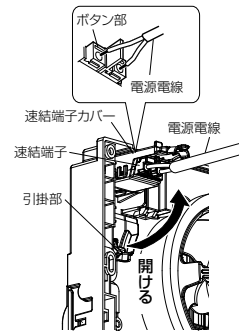
吸込側

1. 本体からグリルをはずす。

2. 結線をする。

電気工事は電気工事士の方が実施してください。

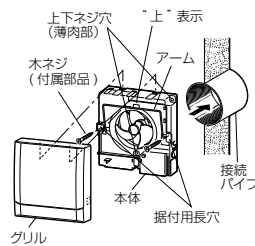
- ①速結端子カバーを右図のように開ける。
- ②電源電線を速結端子に差し込む。
- ③速結端子カバーを元通り閉じ確実に固定する。



お願い

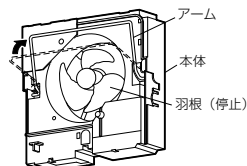
- 電源電線は確実に速結端子に差し込みます。速結端子より導体が出ないようにしてください。
- 電源電線を軽く引いて速結端子に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源電線をかみ込まないように本体面に密着させて配線してください。
- 電源電線を速結端子よりはずす場合は、ボタン部（白色）を押しながら電源電線を引き抜いてください。

3. 本体の上下を確認して接続パイプに差し込み、付属の木ネジ2本で本体を固定する。



4. グリルを本体に据付ける。

- ①アームを右図のように押し上げる。
- ②グリルの方向を間違えないよう本体に据付ける。



お願い

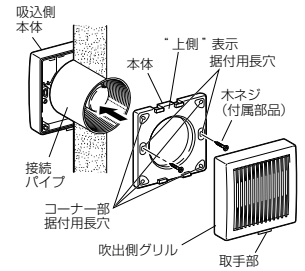
- グリルの据付けは、必ず電源を切った状態で行ってください。シャッター機構が破損するおそれがあります。

吹出側

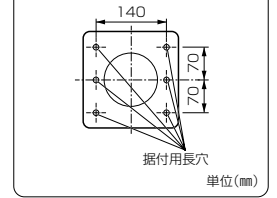
1. 本体からグリルをはずす。

2. 本体の上下を確認して接続パイプに合わせ付属の木ネジ2本で本体を固定する。

- 本体の刻印「上側」を上側にして据付けてください。
- 左右の据付用長穴をご使用ください。必要に応じてコーナー部据付用長穴をご使用ください。
- 石膏ボードに据付ける場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。



■本体ネジ穴位置



3. グリルを本体に据付ける。

- グリルの方向を確認して、本体に据付けます。

5. 据付後の確認

据付けが終了した後、本体とグリルが確実に据付けられているか確認する。

6. 試運転

お客様立ち会いで試運転を行ってください。

据付けが終わりましたら下記の要領にて試運転を行い、正常に動作するか、異常な音・振動などがなければ確認してください。

1. スイッチを「入」にするとシャッターが開き製品が運転（羽根が回転）するかを確認する。
2. スイッチを「切」にするとシャッターが閉じ製品が停止するかを確認する。

7. お客様への説明

別冊の取扱説明書に従って、正しい使い方をお客様または発注者（オーナー、ゼネコン）や管理者へ説明してください。